

平成30年度

# ほがらか家族

明るい家庭づくり作文集

(瀬戸内市優秀賞受賞作品)



瀬戸内市教育委員会

岡山県青少年育成県民会議瀬戸内地区連絡協議会

## はじめに

公益社団法人岡山県青少年育成県民会議及び岡山県青少年育成県民会議瀬戸内地区連絡協議会では、家庭の役割、家族のあり方など、「明るい家庭づくり」をテーマとした作文を募集しており、家庭教育等の重要性について意識の向上に努めております。

平成30年度は、瀬戸内市内で1,160点の応募作品があり、その中から瀬戸内市の優秀賞14点、優良賞34点及び佳作79点を選定しました。

この文集「ほがらか家族」は、瀬戸内市の優秀賞作品を掲載したものです。この文集が、家庭の教育力の向上の一助となり、青少年の健全育成につながることを心から願っております。

平成31年3月

瀬戸内市教育委員会 教育長 東南 信行  
岡山県青少年育成県民会議瀬戸内地区連絡協議会 会長 神坂 俊規

### 瀬戸内市優秀賞一覧

#### 〔小学生の部〕

| 題 名          | 所 属       | 氏 名   |
|--------------|-----------|-------|
| ぼくのおくりび      | 国府小学校 1年  | 井上 絢斗 |
| 赤ちゃんが生まれる    | 今城小学校 2年  | 永守 創  |
| ぼくはお母さんが大好き  | 今城小学校 3年  | 坪井 大和 |
| とても元気なおじいちゃん | 牛窓北小学校 4年 | 木山 滉  |
| やさしいおじいちゃん   | 今城小学校 5年  | 瀬濱 彰浩 |
| 新しい家族        | 国府小学校 6年  | 高倉 昇玄 |

#### 〔中学生の部〕

|       |          |       |
|-------|----------|-------|
| ダーツ旅行 | 長船中学校 1年 | 新田 椋乃 |
| 自慢の兄  | 邑久中学校 2年 | 吉田 津麦 |
| 父の仕事  | 長船中学校 3年 | 児玉明日香 |

#### 〔保護者の部〕

|               |        |       |
|---------------|--------|-------|
| 我が家の場合        | 牛窓北小学校 | 木山 雄  |
| 一緒に暮らすということ   | 邑久小学校  | 角南 未規 |
| 卵焼き対決         | 国府小学校  | 宮本 和子 |
| お母さんは宇宙人      | 国府小学校  | 竹内 麻衣 |
| 無邪気な息子から教わること | 行幸小学校  | 森本 章江 |

## 小学生の部



### ぼくのおくりび

国府小学校 1年 井上 絢斗

「ほ〜とけさ〜ん、こ〜れについておかえんせえ〜。」  
と、じいじがいました。そのあとぼくが、  
「おかえんせえ〜。」  
とげんきにいうと、いとこのはるくんもぼくのまねをして、おおきなこえで、  
「おかえんせ〜。」  
といました。「おかえんせえ〜。」といったあとは、はなびをするので、ぼくはうれしくなっていました。

ほとけさんは、ぼくたちのごせんぞさまのことです。おぼんになると、きゅうりのうまにのって  
いそいでおうちにかえってきます。ぼくは、ひいおじいさんとひいおばあさんにあったことはない  
けど、ひいおじいさんたちは、はやくぼくたちにあいたいのだとじいじがおしえてくれました。ひ  
いおじいさんは、にぎやかなのがだいすきだったそうです。

おくりびのときは、なすびのうしにのってほとけさんはゆっくりさよならをします。ひいおじい  
さんたちがさみしくないようにはなびをしながらみおくらせてあげます。

ぼくは、おくりびがまいとしたのしみです。どうしてかという、ぼくのかぞくのほかに、じい  
じやばあばやいとこやおじさんやおばさんたちみんなであつまれるひだからです。みんなでごは  
んをたべたり、はなびをしたりすると、とてもたのしいです。

ぼくたちかぞくがげんきにいられるのは、  
「ごせんぞさまがみまもっているからよ。」

とおかあさんがいました。

らいねんのきゅうりのうまは、あしをながくしてあげたいとおもいました。



### 赤ちゃんが生まれる

今城小学校 2年 永守 創

もうすぐ、ぼくはお兄ちゃんになります。びょういんではじめてお母さんのおなかの中のしゃし  
んを見たとき

「こんなまめみたいな形をしているのに、本当に赤ちゃんなのかな。」

とふしぎな気持ちになりました。だんだんお母さんのおなかが大きくなって今はぼくがさわって話  
しかけると、ぐるんとうごくことがあります。赤ちゃんとお話をしているみたいでうれしくなります。  
ぼくが、夏休みに入ったころ、お母さんが、おしやさんに

「なるべくうごかずに、あんせいにしてください。」

と言われたそうです。せんたくやそうじ、ごはんができていないので、お父さんがすることになり  
ました。お父さんは朝から夜までしごとがあるのにとっても大へんだなと思います。そこで、この

前はじめてぼくは一人でばんごはんのよういをしました。はじめて切ったトマトは、じょうずに切れなかったけれど、お父さんは

「じょうずに切れたね。おいしいよ。」

と言ってほめてくれました。ほかにも、おさらをあらったり、そうじきをかけたり、今までしたことがないことをしました。いつもお父さんやお母さんがやってくれるけど、自分でやってみると本当に大へんでした。いつもしごとをしながら、ごはんやそうじやせんたくをしてくれるお父さんやお母さんはすごいなと思います。今、ぼくは夏休みなので、ごはんのよういやかたづけなど、自分でできるお手つだいをがんばりたいです。そして、お母さんに元気な赤ちゃんをうんでほしいと思っています。

もうすぐ生まれる赤ちゃん。家ぞくみんなで、会えるのをたのしみにまっているよ。



ぼくはお母さんが大好き

今城小学校 3年 坪井 大和

ぼくは三年生になりました。三年生になるとお母さんが、  
「少しずつ、自分のことは自分でやりなさいよ。」

と言うようになりました。とくに、週末になったら、上ぐつや、うん動ぐつをあらうように言われます。ぼくは、なかなかやる気がおこらず、「お母さんがしてくれたらいいのになあ。」と思って、何もしない日がつづきました。

ある日、お母さんが仕事からくたくたになって帰ってきました。ぼくのお母さんは、かंगしなので土曜日でも日曜日もお仕事に行くことが多いです。この日は、帰ってきてぼくたちのお世話をしてくれると、その後はぐったりしていました。ぼくが、

「お母さん、だいじょうぶ？」

と聞くと、お母さんは、

「だいじょうぶ。」

とあまり元気のない声で言いました。

お母さんを見て、ぼくは心配になりました。そして、少しでも家ではゆっくりとしてもらいたいという気持ちになりました。そのために、今、ぼくにできることは何だろうと考えたとき、「あっ、そうだ。ぼくのくつをあらおう。そうしたら、お母さんの家の仕事が少なくなる。」と思いました。

ぼくは、はじめてたわしにせんざいをつけて、くつをあらいはじめました。かるくこするぐらいでは、なかなかよごれは落ちません。力を入れてゴシゴシ、何でも何でもこすると、やっときれいになりました。気づけば、あせでびしょびしょになっていました。きれいになったくつを見て、たっせいかんいっばいになりました。それから、くつをあらうのがこんなに大へんだったことに、自分が試みてはじめて分かりました。お母さんにピカピカのくつを見せながら、

「いつもありがとう。これからは、ちゃんと自分のことは自分でするからね。」

と、かんしゃの気持ちをつたえました。すると、お母さんは、

「大和、ありがとう。」

と言って、ぼくをぎゅっとだきしめてくれました。弟や妹がいるので、なかなかだきしめてもらえなかったぼくは、その時うれしくて、なんだかあたたかい気持ちになりました。

お母さんは、仕事をしながら、家ではお料理を作って、せんたくをして、そうじをして、ぼくたちのこともしてくれています。大好きなお母さんがつかれきってしまわないように、今、ぼくに

出来ることは何かとを考えながら、自分のことはできるだけ自分でして、家のお手伝いもしていこうと思いました。

「お母さん、ぼくはお母さんが大好きだよ。大へんな仕事をぼくたちのためにしてくれてありがとう。これからは、くつみがきも、月曜セットのじゅんぴも自分でがんばるよ。それから、おふろそうじもできるだけするからね。」



とても元気なおじいちゃん

牛窓北小学校 4年 木山 滉

おじいちゃんはいま、七十六さい。でも、元気だ。ぼくの、電子工作のはんだづけをしてくれたり、かぜをひいたときに、ぼくが、大好きなおすしを買ってくれたりする。

仕事は、おきた鉄こう所で、電気管理の仕事を、一週間に、二、三回している。朝の八時から、夕方の五時まで働く。帰ったら、すぐ畑仕事をしている。ほんとに元気だ。ぼくは、おじいちゃんの日が、どんな感じなのか知りたいなと思った。

そして、八月の朝、ぼくは、おじいちゃんと畑に行くことになった。ぼくが、おじいちゃんに弟子入りするのだ。おじいちゃんは、  
「出荷して売れたら、売り上げの一わりを滉くんにあげよう。」  
と言ってくれた。

朝の五時半におきて、ぼくは、今日は、一日がんばって、おじいちゃんを手つだうぞ、という気持ち満々だった。畑で、しゅうかくをしていると、ナスのとげがささり、ぼくの苦手なハチやアブがきて、たいへんだった。おじいちゃんは、毎日、こんなに暑いたいへんな中を、ていねいに、しゅうかくしているんだなと思った。それなのにぼくは、アブや、ハチがきたりして、と中で、にげていた。そのうち、ハサミをわすれて、しゅうかくどころじゃなくなって、うまく手つだえなかった。でも、おじいちゃんは、しんけんに、ナスをとり続ける。長さが、二十センチくらいのナスをとって、黄色い葉は、とってすてないといけないと教えてくれた。ゴーヤも、二十センチ以上になったらとると、教えてくれた。十五キロくらいとると、朝のしゅうかくは終わった。帰ってから、おばあちゃんとふくろづめをした。休む間もなく出荷へ。牛窓の産直に行った。ぼくは、バーコードをつくる。名前などを入力していく。そして、バーコードをおじいちゃんがはる。そして、全部はり終わると、たなにならべる。すると、すぐにおばさんが、ナスを買ってくれた。その次は、邑久だ。こんども同じようにした。夕方になると、水やりだ。バルブをひねって水を出し、ホースでする場所をした。そして、こんどは、水の量を調節する。二人でよく見て、バルブをひねる。ものすごくしんけいを使った。

やっと家に帰ると、メールがとどいた。なんと、三十ふくろのナスが、全部売れていたのだ。ぼくは、「やったー。」と思った。苦労した分、いい結果が出た。おじいちゃんのがんばりがつまったナスは、人気があるんだ。

おじいちゃんは、日々苦労しているのに、一言もいやだなんて言わない。夕食の時に、大好きなお酒を飲んで、笑顔で、ぼくのしつ問に答えてくれたり、いっしょに話をしてくれたりする。もんくを言わずに、がんばってやる強さがあるから、人を喜ばせるような仕事ができるんだなと分かった。ぼくも、おじいちゃんのようにがんばるぞ、と思った。



やさしいおじいちゃん

今城小学校 5年 瀬濱 彰浩

ぼくは、おじいちゃん大好きです。ぼくが生まれたときから大事にしてもらっています。小さいころ、ぼくがさるを見て泣いたらお父さんは、  
「こんなことで泣くな。近づいていけ。なさけないな。」  
と言ったそうです。しかしおじいちゃんは、  
「彰浩は、さるのこわさを知っているから泣けるんだ。かしこい子だ。」  
と言ってくれていたと聞きました。

そんなおじいちゃんが、どうもこの所おかしいのです。同じ話を三、四回とくり返すし、話をしても、一、二分で忘れていることもあります。体が痛いようで、座っていることが多く、丸一日座ってうとうとして過ごす日もあります。歩いていても、何かをつかみながらゆっくりと動いています。耳もあまり聞こえなくなっているようで、少し大きな声で話をしないと聞こえません。時々、大きな声でおばあちゃんに怒っている姿も目にします。ぼくは、そんなおじいちゃんを見ると、ちょっと悲しくなります。

その気持ちをお母さんに話しました。お母さんは、おじいちゃんのことについて教えてくれました。おじいちゃんの病気は認知症といって、少しずつ忘れることが増えていき、体も動きにくくなるのだそうです。ぼくはつらくなりました。しかしお母さんは、それはちがうと言いました。「一番つらいのはおじいちゃんだよ。やり場のない怒りや、悲しみや、不安もでてしまうの。むずかしいとは思いますが、おじいちゃんの気持ちを理解するようにしてあげて。」

ぼくがおじいちゃんにできることって何だろう。大人じゃないから、お父さんのようにおじいちゃんをかかえたりすることはできません。お母さんのように、おじいちゃんのつめを切ったり、ひげをそったりすることもできません。

今のぼくが、おじいちゃんのためにできること。それは、おじいちゃんがいつもぼくの味方でいてくれたように、ぼくもおじいちゃんの味方でいること。

おじいちゃんだけでなく、だれでも認知症になる可能性があります。怒り、悲しみ、不安。おじいちゃんと同じように、ぼくもいろいろな気持ちをもっています。おじいちゃんの気持ちになって、どうすればいいか、自分だったらどうしてほしいかを考えて、おじいちゃんが困っていることを手助けしたいです。

ぼくは友達や家族と話をするとき、目を見て、やさしい表情や口調で話してくれるとうれしいので、ぼくの気持ちが伝わるように、おじいちゃんにもそうしていきたいと思います。

ぼくのお好きなおじいちゃん。おじいちゃんがいつでも笑顔でいられるように、ぼくも笑ってそばにしようと思います。



新しい家族

国府小学校 6年 高倉 昇玄

最近ぼくの家族が前よりもっと明るくなりました。弟が生まれたからです。生まれると分かったころから名前を何にするかなどでにぎやかでした。当時、ぼくはしりませんでした。弟は心臓

の左の部屋が少し小さくて、生まれてこられないと言われていたそうです。それでも弟はそれのりこえて何事もなく生まれてきました。そのときに名前は幸司にきました。幸せをつかさどると言う意味があるそうです。今はみんなでその幸司のお世話をしています。幸司が言葉を覚えるたびにみんなで笑っています。みんなで幸司と話をしていると会話が成立してみんなで盛り上がります。少し、世話が大変だけどみんなでやると楽しいです。お母さんが忙しいときは、おじいちゃんとおばあちゃんの部屋に預けるので、行く機会が増えて、会話をすることが、多くなりました。いとも幸司に会いに来るので遊ぶことも多くなるし幸司が生まれてからはすごく楽しいです。みんなもそう思っているらしくぼくの家族はいつもニコニコしています。父さんも夜おそくまで仕事をしてつかれて帰ってきているのに、幸司を見るとニコニコします。ぼくもサッカーや陸上から帰ってきて幸司を見ると、なぜか少しほのぼのする気がします。どちらかと言えばぼくよりも弟のほうが幸司の世話をよくしますが、その弟も楽しそうだし会話を聞いているとぼくもおもしろいです。

幸司は、心臓のことで生まれてこれないかもしれない、生まれてこれたとしても、一生病院で暮らすことになると言われていました。奇せきてきに、幸司は何事もなく生まれてこられましたが、みんなが、健康で、何の不自由もなく、生まれてくるのが当たり前じゃないんだとぼくたち家族に命の大切さを教えてくれたし、おじいちゃんやおばあちゃんやいここに会う機会を増やしてくれたし、家族でお世話をするのでいっしょにいる時間や会話を増やしてくれています。幸司のおかげで前から明るかった家族がさらに明るくなりました。お父さんやお母さんはぼくと弟と幸司の大切さはいっしょだといっています。でもぼくは幸司がいるときといないときなら絶対に、いるときの方が楽しいので、幸司が一番のムードメーカーだと思っています。

ぼくは一番上のお兄ちゃんなので二人の弟にたよられる存在になりたいです。

## 中学生の部



ダーツ旅行

長船中学校 1年 新田 椋乃

夏休みの初め、母が私と弟にこう言った。

「今年は、四人の予定が合わないから、夏休みには旅行へ行けないかもしれないね。」

旅行は私にとって、夏休みの一大行事だ。その旅行に行けないかもと聞いたとき、私だけでなく、弟も暗い気持ちになっていた。

数日後、弟が突然、

「ぼくがダーツを作るから、楽しみにしとてな。」

と言い出した。母に、日帰りなら遊びに行けるかもしれない、と聞いた弟は、自分の行きたい場所を書き込んで、ダーツを作ることにしたらしい。弟は、日本地図を見て、行けそうな場所を探して丸く切ったダンボールに書いた。鳥取、島根、香川、高知など、中四国の県が書かれている中に、なぜか真ん中は倉敷である。

ダーツをする順番が、私にもやって来た。私は、ダーツを見て、自分の行きたい大阪が入っていないことに気づき、

「私の行きたい大阪がないなあ。」

と、つぶやいた。私の言葉を聞いた弟は、はっとして、「このダーツ、みんなの行きたい場所が入ってない。ぼく、ダーツを作り直す。」と言った。

弟は、家族全員に、行きたい場所を二つずつ聞いた。

私は、大阪と京都をお願いした。大阪は、去年家族全員で行った遊園地が楽しかったので、もう一回行きたいと思ったからだ。京都は、修学旅行で行った時に興味を持って、寺や神社をめぐりたかったからだ。母は、広島と大阪を選んだ。母は、買い物が好きで、新しくできた商業施設や、はなやかな場所に行きたいそうだ。弟を選んだのは、大阪と宮島だった。今度は、みんなが行きたそうな場所を考えたい。そして父は、ひるぜんと倉敷を選んだ。気軽に行けそうだし、すずしそうだったからだそうだ。

調査をして、弟が作業をする。いつもは、何をしても、途中であきらめたり、できないとすねたりする弟が、もくもくと作り上げたことに、家族全員が驚いた。

こうして、家族全員の希望が入ったダーツが完成した。弟が投げるのに使うボールを作っている間に、私はダーツの的に勝手に絵を付け加えた。宮島には大きなとりい、倉敷にはジーンズ、大阪には観覧車を描いた。ついでに、タワシの欄までつけ加えた。手を加えることで、自分も勝手に手伝った気分になった。

父が仕事から帰って来て、ダーツを始めようとしたとき、母が笑い出した。

「京都が京東になってるよ。」

ダーツを見た弟が、はずかしそうに笑った。

「でも、お姉ちゃんだって、東京タワーの絵、書いてるよ。」

分からない漢字もある中、一生懸命作った弟、そして、自分が希望した京都を忘れ、東京タワーを書いてしまった私。ひさしぶりに家族全員が笑った。

一番に投げるのは私だ。私は、大阪にねらいを定めてボールを投げた。ボールが的に当たった。弟が記録する。家族四人が、五回ずつ投げて、一番多かった場所に、今年中に必ず行く、というようになった。

ダーツは盛り上がった。父がタワシに当てた。おもしろかったけれど、少し、タワシを書いたことを後悔した。

家族全員が投げ終わり、

「どこになった？」

と聞くと、

「大阪になったよ。」

と言った。私は、自分の行きたかった大阪に行けることになって、やったあと思った。また、あの楽しかった遊園地に行けると思うと、ワクワクした。

「どこに行く？いつ行く？」

家族全員が明るくなった気がした。

弟のダーツは、しずんだ家族の気持ちを明るくしてくれた。夏の終わりに近づくが、いまだに大阪に行く気配はない。でも、ダーツをする中で、ハラハラしたり、ドキドキしたり、ここへ行ったらあれをしよう、これをしよう、と考えたあの時がとても楽しかった。遠くに出かけることもいいけれど、家族全員が一つになって楽しめることも、大きな価値があると感じた夏の思い出だった。





自慢の兄

邑久中学校 2年 吉田 津麦

私には、一人の兄がいます。高校三年生でクラスではいわゆるムードメーカーでおもしろくやさしい兄です。そんな私の兄は家族にとっても、私にとっても自慢できる兄です。

私の家庭は母子家庭であり、あまり裕福ではありません。そのため、母が働いていて、祖母が家事などをしてれています。

私の兄は、一級建築士を目指していて、高校へ行っています。兄はものすごく頭がよく期末テストなど、大体学年1位か2位です。それだけでも自慢の兄なのですが、それに加えて、兄はマクドナルドでアルバイトをしています。生徒会執行部に入って学校のことで忙しいのにアルバイトもしていてすごいと思いました。

兄は、頭はいいですが、少し変わっていてポケモンやゲームが好きで最近ではクレーンゲームにはまっているようで、私は、ゲームもしていて、アルバイトもしていて、クレーンゲームもしていて、何故それだけ頭がいいのか考えました。きちんとメリハリをつけていて、楽しくすることと本気で取り組むことのどちらともできていて、今の兄がいると思いました。兄と私のテスト期間がかぶっている時でも、兄は私に勉強を教えてくれたり、休憩の時は、学校でおきたことや、後輩のおもしろい話をしてくれてすごいやさしいです。勉強面でもすごいですが、アルバイトの方でもがんばっているみたいで、いつも笑顔で誰でも親しみやすい性格を生かしてアルバイトをしていたら、イオンモール側から、賞をいただいたそうです。勉強やアルバイトをきちんと両立できていて、尊敬できる兄だし、自慢できる兄になりました。

そんな兄は、今年で18歳で就職を控えていて、大阪にある会社に行きたいらしく、先日その会社へ体験として行っていました。日帰りだったのでその日の夜、兄にどうだったと聞くと、「色々学べたし、すごく勉強になって楽しかった。」

と、もう少しで社会人になる兄がすごくかっこよく見えました。

自慢できる兄ですが、完璧な人間ではないので、当然嫌な所があったり、意味がわからない行動をします。例えば、兄は自分が悪いことをしたにも関わらず、自分の非を認めようとはしません。そのため、母とケンカに発展してしまうことが多々あるのです。その他にも、兄は母がごくたまにつくる料理を食べようとしません。兄は、普段学校へ行っている時、コンビニや学食で買うとお金ももったいないので、大体自分で朝お弁当をつくって学校へ行っています。兄は勉強もできるのに料理やお裁縫もできる家庭系男子なので、自分がおいしくないと感じた料理は食べず、自分で料理をつくって食べます。せっかく母がつくった貴重な料理を食べないのか、それほど兄にとってはおいしくないのかと不思議に思います。

いい所も悪い所もある兄ですが、元々頭がよかったわけではありません。中学一年生はまさに問題児でした。その頃は、提出物を全く出しておらず、勉強もあまりできなかったそうです。先生には怒られて、母にも注意されて、中学二年生でやっと提出物を出したそうです。昔が悪くても、今がよければそれでいいと聞きなおっていた兄をみるとすごく笑えてきます。

兄は頭がいいですが、テスト期間2週間や何かしらのテスト以外で熱心に勉強している所をあまり見たことがありません。休日はアルバイトだったりして久しぶりに何もない日になると兄は、ポケモンゲームをしたり、クレーンゲームでポケモンのぬいぐるみをとって来たりなど、趣味全開です。兄のベットは何十体にもおよぶポケモンのぬいぐるみがあったり、一時期プラモデルにはまっ

ていたりなど、兄の部屋はどこからつっこんでいいかもわからないほど異様な部屋になっています。またそこもおもしろくて、私が自慢できる兄なのです。

私の兄は、だめな所もあるし、母とケンカしてしまうこともある兄だけど、友達や家族を笑顔にさせてくれる最高の兄で、勉強や部活、アルバイトや家のお手伝いなど、毎日がんばってしている兄は、家族にとっても、私にとっても自慢できる兄であり、尊敬できる兄です。



## 父の仕事

### 長船中学校 3年 児玉 明日香

私の父は消防士です。私の住む瀬戸内市の消防署に勤務しています。父は以前、自信のある体力を生かして人助けができるから消防士になったのだと言っていました。中学生になった今では話をする事も減りましたが、幼い頃には父はいつも私のことをさりげなく助けてくれました。自転車の乗り方や絵の描き方など、たくさん知らないことを教えてくれたのも父でした。そんな父のことを、幼い私は本物のヒーローのように思っていました。

消防士には大きく分けると、火事現場の消火活動と救急搬送の仕事があるそうです。また大きな災害が起こったときには、自衛隊の方と一緒に現場に派遣されることもあります。

今年の七月上旬。西日本豪雨災害により、岡山県も甚大な被害を受けました。幸いにも私の住んでいる地域では大きな被害はありませんでしたが、知り合いの中には被災した方が何人かいました。岡山県内でも特に大きな被害を受けた倉敷市では、今でも避難生活を強いられている方がたくさんいるそうです。そして、今回の豪雨災害で家が水没してしまったり、学校が浸水したことで通えなくなったりして、いつも通りの生活を送れなくなってしまった方もたくさんいます。

私の父は豪雨の二日後に、倉敷市真備町へ派遣されました。水は引いていたものの、大量の土砂や流木が道路を埋め尽くしている町の様子をテレビのニュース番組で観ていたので、少し不安になりました。父は私が登校するよりも前に家を出て、その日の夜遅くに帰ってきました。帰ってきた父の青い作業着は泥で茶色くなっていました。父はとても疲れた様子でしたが、「生きている人が見つけられた。」

と、珍しく少し真面目な顔で話をしてくれました。

父が派遣されたのは初日だったので、まず泥だらけになった家や水に浸かった家を一軒ずつ回って、人が残っていないかを確認していったそうです。そのとき父は、一階が水に浸かっていた家の二階にいたお年寄り一人を見つけたのだそうです。でも父は、「生きている人を見つけられたのは運が良かった。実際、亡くなっている人もかなり発見されていたし、行方不明のままになっている人もまだまだいる。」

と言っていました。

私は、父からちゃんと現場の話聞くのはほぼ初めてで、いつもの父、いつも父が笑顔で話す仕事の話とのあまりのギャップに、とても戸惑いました。

正直、身近な人を亡くした経験もなく、遺体なんて見たこともない私には想像することしかできませんが、いくら他人とはいっても亡くなっている人を発見したら、私だったら発見できたことよりも、恐怖を感じ、その場に立っていることすらできないと思います。

しかし、これは災害派遣に限ったことではなく、消防士の仕事は常に厳しい現場と直面するものです。救急搬送では通報を受けて、既に亡くなっている方を運ぶこともあります。火事現場

では炎の中から遺体を見つけ出すこともあります。それはきっと普通に生活をしていれば、考えられないほど残酷な現実のはずです。私なら精神的につらくて堪えられないと思うけれど、父はどんな仕事があったとしても同じように家に帰ってきてくれます。

どんなに前日の仕事がつらかったとしても、どんなに眠れていなかったとしても、「普通」に帰ってくる父。今まで私に現場での話をしなかつた父。それは全て、私や家族の「普通」の生活を壊さないための気遣いだったのだと今になってやっと気付くことができました。父が味わってきた現実が、どれだけ苦しく大変なものだったのか、私に理解することはできません。しかしそれでも、父の十数年分の深い優しさを感じることができました。

西日本豪雨災害では、非常に多くの方が被災されました。その中には、大切な人を亡くされた方もいます。それはどうしようもない悲しい出来事には違いありません。でも一方では救助されて助かった方もいます。その救助に父も一人の消防士として関わっていたのだと思うと、私は父のことを心から誇りに思うのです。

消防車や救急車のサイレンを聞くと、  
「お父さんも今、頑張っているのかな。けがはしていないかな。」  
と、少し心配な気持ちになるときもあります。でも父は消防士として、いつだってより多くの人を助けることに力を注いでいるはずですよ。そんな父を、私は学校からいつも応援しています。

父は、私の一番のヒーローです。

## 保護者の部



我が家の場合

牛窓北小学校 木山 雄

我が家は現在八人家族で、三世代が同居しています。住んでいるのは牛窓町の北に位置する長浜という地区で、地域の人との温かいつながりを感じることでできる所で暮らしています。私の家族は、八人とも絶妙な距離感で過ごしているように思います。特に、私の父と母の、家族に対する距離感が我が家の特筆すべき点だと感じています。

私の家族は、お互いに踏み込んだことをあまり言いません。とても淡白なかかわり方です。濃い話を避けているようにも思えます。しかしそれは、いろいろな局面であっても、起こっていることを巧みに受け入れ、消化しているからだと思われます。この「受け入れる」心の厚みが、我が家を健やかに保っているのではないかと思います。

我が家の父も母も非常に働き者ですが、働くことについて、一言の文句も言わず、黙々と、淡々と仕事をしています。母は、わがままいっぱい小学生の孫二人を、親以上にうまく、温かく育ててくれています。子どもを毎日学校に通わせるためには、大人の事情は抜きで、こつこつと生活リズムを整えてやる必要があります。その点でも、母は絶えず孫たちの健康に留意し、衣類や持参物の確認に至るまで、きっちりと把握しています。私達親は、完全に依存しています。でも、堅物というわけではなく、鼻歌混じりで孫が散らかした物を片付け、孫と一緒にアニメを見て笑う・・・。父も同じで、孫のわがままにとことん付き合ってくれます。「何でもできるようになった。」「何でも食べれたしたなあ。」というのが口癖です。一方で、畑に出れば、近所の人も一目置くほどの働きぶり、毎晩汗みどろになって帰宅しています。二人ともそれらのことを全く苦痛

に感じていません。頭の下がる思いでいっぱいです。

現在、父母は非常に元気で、私もそのことを当たり前と思うほどです。しかし、そうとは言えない時もちろんありました。母が大病を患ったり負傷したりした時には、「あの母の代わりができるのか。」と、各々の心のうちは大きく揺れていたと思います。しかし、実際には、口では誰も言わないものの、「母のために、家族のために、一致協力する。」と行動しました。家族のために父や母が今まで献身的にはたらいてきた姿は、私達にとって無言の手本となっていたのだと感じました。

また、地域の方々にも多くの助けを頂いています。子どもたちを見かけると必ず声をかけてくれますし、危ないことをしているとしっかり注意してくれます。知っている人ばかりの環境に、子どもたちは自然と地域コミュニティに臆することなく参加できる。それによって私達も安心して暮らせる環境がこの地区にはあるのです。私の父は、地域の人々と繋がりをもつ名人で、数十年前から地区のボランティア活動に関わっています。近所の人々はみんな仲間。地域の人々と良好な関係を築いたのが父でした。私が幼かった頃を思い返してみると、今と同じように、周りの大人はよく声をかけてくれました。三十年以上も前と変わらず地域の皆さんは私を、家族を、子どもたちを支えていてくれるのだと思うとなんとも言えない安心感を覚えるのです。

私は消防団に属しており、微力ですが自分にできることをさせてもらっています。以前しばらくこの長浜の地を離れて過ごしていたこともあり、地域を知る一つとして消防団へ入団の勧誘を受けると、二つ返事で決めました。忘れてしまっている地域を思い出すことはもちろんできましたが、それ以上に地域との繋がりが増えたことが私にとって大きな財産になりました。事あるごとに私や私の家族が繋がった方々に助けていただき、暮らしやすい地域に住んでいることを実感しました。

そういった家庭環境、地域に存在する我が家ですが、数年前、他県に出ていた長男は岡山を就職先を選び、自宅に戻ってきました。知り合いが多く、過ごしやすい、何より食事や洗濯に困らないというのがその理由だそうです。自分のコミュニティがあり、家族の温かいサポートがあることがどれだけ有り難いことか、彼なりに感じているのではないかと思います。

私は、未来を担う子ども達に、今私が感じているような家族や地域への感謝の気持ちを同じように感じてほしいと思います。そのためには、父や母に及ばないとはいえ、私自身が、家族とのよりよい関わり方を示し、地域に参画していく姿を見せることが大切だと思っています。



一緒に暮らすということ

邑久小学校 角南 未規

「大切な話がある」と、主人から海外赴任となる事を告げられました。それを聞いてすぐ、私は2年前の単身赴任生活が頭に浮かびました。

主人は、長女が0歳～5歳まで県外で仕事をしていました。週末には帰って来られる距離でしたし、初めての子育てをしながら知らない土地で暮らす事は不安だった為、私と長女は私の実家のある岡山に居ることを決めました。週末には帰って来る、実家の手助けがあるとはいえ、仕事をし、一人で子育てをするということはやはり大変で、寂しいものでした。

今回は海外。長男も生まれ、まだ2歳。長女も一年生になり、保育園の頃とは違い、相談事や夫婦で決めないといけないことも増えてきました。お父さんの居ない生活。会えるのも数ヶ月に1回程度。私は、仕事をし、学校、保育園、習い事、地域の事、全ての役割を一人でこなさ

なければいけません。ただ、岡山に残ると私の両親の助けがあり、子供達の状況も今のままで、生活は大きくは変わりません。

海外で暮らすとなると、全てが一からの生活です。言葉も分からず、誰の助けもなくなり、子供達も転校・転園しないといけません。教育環境、医療制度、治安の問題、さまざまな不安が浮かび、今後をどうするか、なかなか答えは出ませんでした。

主人と話し合う中で、海外で暮らすということは、とても貴重であり、家族にとって今後の人生で良い経験となるだろう、それを大前提に考えてみようという意見が出ました。

私は、今まで、何かを決断する時には、「物事には必ず一長一短がある。迷った時には、良い方信じてみよう」という考えで物事を決めてきたことを思い出しました。今回もその考えでいってみよう、と。不安な事は一旦忘れて、楽しい事、家族にとって良い事を考えてみました。

「仕事での渡航の為、同じような境遇で生活している日本人が現地にたくさん居ることが分かっている。岡山では知りえるはずも無い人達と出会える。日本しか知らない子供達にとっては、見るもの全てが刺激的で、語学も身に着くかもしれない。飛行機にも乗れる。また、今まで食べたことも無い美味しい食べ物があるだろう。そして何より、その楽しい事を家族全員で共有できる。」

「悪い事ばかりじゃない。」

私の答えが決まりました。不安、困難と感じる事も裏を返せばプラスになります。発想の転換です。誰もできない経験ができるし、これからの時代を生きる子供達にとって海外生活の経験はプラスで、強みとなります。今回も良い結果となるはず、そう信じてみようと考えを決めました。

これからの人生、様々な事が起きると思います。時に辛く、試練となる事もあるでしょう。しかし物事を前向きに捉え、家族で話し合い、皆が幸せになるよう努力をすれば、どんな困難も乗り越えていけると思います。今回のことを通して、家族と一緒に暮らすことの大切さとその意義を見出すきっかけとなりました。これからも家族全員、明るく、元気に頑張っていこうと思います。



卵焼き対決

国府小学校 宮本 和子

我が家では年に数回、不定期に料理対決が行われる。参加者は6人の息子達で、常に参戦している子、時々参戦している子、観戦と味見係を楽しむ子、と毎回変わる。メニューはいつも決まって卵焼き。この対決のたびに私は翌日の弁当の卵を心配しなくてはならない。

この卵焼き対決が始まったのは3～4年前だったか、夕食の後まだもう少し物足りなかった次男が四男に言った。

「お前より五男の方が卵焼きが美味しいよな。」

すると負けず嫌いの四男が

「俺の方が美味しいわ。こいつすぐ焦がすし。」

「そんならどっちが美味しいか作ってみい。」

ということで早速四男と五男が作り始め、次男はそれを楽しんで見ている。しばらくして甘くて香ばしい匂いが漂ってきた。お皿が2つ運ばれてきて四男と五男が次男の判定を待っている。

「見た目はええけど味がええのは五男じゃな」

こうなると四男はもっとむきになる。

「母ちゃんはどっちが美味しいと思う」  
急にこちらに振られると焦ってしまう。

「えっと、どっちも美味しいよ」

と答えると、

「そういう答えはいらんからちゃんと決めて」

と怒られた。そんな兄ちゃんたちを見た六男も

「ぼくも作る」

と言い出した。この子がやると言い出したら止められない。少し責任を感じたのか次男が手伝って六男と2人で作り始める。こうしてまた3つのお皿が並んだ。ここまでで使った卵は10個。部屋中香ばしい匂いでいっぱいになる。

またある時は次男が三男にこう言った。

「あー、なんか三男の卵焼きが食いたいわー。」

すると優しい三男、面倒臭がりながらも焼いてきた。誰かが作りだすと自分も作りたくなるらしく、つられてまた誰かが焼き始める。こうしてまた卵焼き対決となる。

私はこの息子達からくり広げられる卵焼き対決をいつも楽しませてもらっている。息子が6人もいるわけだから普段はできるだけ食費を抑えようと、卵だって安い物を買って求め、使う数も考えながら料理をしているが、この卵焼き対決の時だけはけちけちしない。使いきって卵がなくなってしまうても翌日のお弁当は卵なしで作ればいだけだ。せっかく子供達が美味しい卵焼きを作ろうと一生懸命料理しているんだから。

同じように作ってもそれぞれ個性的で美味しい卵焼き。

やっぱり母ちゃんには優勝は決められないよ。



お母さんは宇宙人

国府小学校 竹内 麻衣

「ねえ、『かあか』の帰る星ってあれじゃろ？」

次男が指差す先には、カシオペヤ座が光っていた。

「なんで？」

「だって『かあか』のMじゃがん。」

その夜は流星群が見られるということで、子供達と夜空を眺めていた。MではなくWの向きで見えていたが、私の名前の頭文字の方が馴染み深い次男は、私の故郷はMの星、カシオペヤ座だと思ったようだ。

これは遡ること数年前。長男小学一年生、次男は幼稚園年少の時。やんちゃ盛りな二人に、毎日私は大きな声を出しながら、子育てに奮闘していた。かつては子供だった私に想像もつかない行動や発想で、感心することも多いが、愕然とすることが多々あった。

ある日、二人そろって大事な約束をやぶった上に、ヘラヘラ笑って全く反省の色を見せなかった。日々の疲れが重なって、私はプツンと切れてしまった。深呼吸をして、その場に正座した私は静かにこう言った。

「分かりました。もう何も言いません。何を言っても無駄なようなので、私はもう要らないということです。それでは、もう宇宙へ帰らせていただきます。」

ヘラヘラふにやふにやしていた二人は、突然無表情になり、動きを止めて私を見つめた。え、

笑うとこじやないの？予想外の子供達の反応に、大声でドカンと叱るより効果ありと感じた私は、もう少し宇宙ネタを続けてみた。

「それではさようなら。」

そう言って、スッと立ち上がり財布の入ったかばんを持って、玄関へと歩きだしたら

「行かんで！宇宙に行ったらいけん！」

「ごめんなさい。もう約束やぶらんから・・・」

と、涙をポロポロ流しながら、二人が私に抱きついてきた。見下ろす二人の顔は、焦りと悲しみでいっぱい、本当に信じているようだった。何だかかわいそうなことをしてしまったが、幼く純粋な二人がほほえましくもあった。膝をついて、二人の目線に合わせるように私も座り、冷静にゆっくりと話し始めた。

「なんであの約束は守らんといけんか分かる？あんた達二人の命もあぶないし、まわりの人にも迷惑がかかる。楽しい、おもしろいと思わなかったことは、沢山の人を傷つけてしまうことだったんよ。」

そう言うと、泣きながらうなずく二人と、もう一度約束の指切りげんまんをして、きつく抱きしめた。私のイライラは既に消え去っていたし、反省と安心をした二人にも笑顔が戻っていた。

冗談のつもりで言った宇宙ネタは、しばらく私のテッパンものだった。もちろん嘘はいけませんが、子育ての一貫として、私は事あるごとに宇宙人を演じた。料理中、高速で包丁を動かせば二人は目を輝かせて感動するので

「宇宙人はこれくらい普通よ。」

と自慢気になったり、学校で辛い事や後悔して帰ってきた時は、表情や会話のトーンで察するし、学校からの電話で情報を先に知っている時は、そっと核心に触れてみる。言いたくても言い出せないのはよく分かる。ゆっくり一緒に話している内に、子供の顔はやわらかくなり、心がまるくなっていくのが分かる。

『かあか』は宇宙人だから何でも見える。学校であったことも、かくそうとしていることも全部。」

素直に私の宇宙人パワーを信じていた二人も、四年経ち、五年生と二年生になった今では、もう私が宇宙人なんて嘘だとゲラゲラ笑って信じない。テッパンネタが使えなくなってしまったが、確実に子供達に伝わっていると思うことがある。母親とは、どんなことも見抜いていて、だませないこと。頭やおなか痛い時、母親が優しくなでていけば痛みがやわらぐこと。母親自身は、体がしんどくても常に動きまわっていること。笑顔や抱きしめることは、どんなおもちゃを買ってもらえるより嬉しいこと。そして、切れると宇宙のように果てしなく恐ろしいということ。

私からすれば、宇宙人のように謎で意味不明な行動ばかりする子供達だけど、私も一応宇宙人なので、負けずにこれからも子供達と向き合っていこうと思う。迷い、悩み、立ち止まった時は、夜空に浮かぶ故郷、Mの星を眺めて心を落ち着かせよう。



無邪気な息子から教わること

行幸小学校 森本 章江

「ママ、オレ大きくなったら消防士になる。」

我が家の長男5歳、姉と妹に挟まれる中子。天真爛漫で無邪気を絵に描いた様な男の子。その息子が最近、将来の夢を聞かせてくれました。

「ママが火事になったらオレが助けてあげる。」

嬉しい一言。が、いじ悪な私、(かなりの太目体型)

「ママが火事の時、どうやって助けてくれるん？おんぶ？じゃあ、ママをおんぶして。」

「・・・うわあ。」

息子、母をおんぶして倒れる。そりゃそうだ。そして拳を顎に当て、しばらく悩む。

「・・・どうやってか助ける。」

めげずに答えをしばらく出してくれる。

「じゃあ、ママを助けるために、いっぱい力持ちにならんとね。がんばるんよ。」

「うん。」

私は、息子とのこういったやりとりが、たまらなく好きで愛しい。

私の実家は、子供の足で歩いて10分もかからない距離にあり、子供達は一人で行き来します。

息子は何か家に帰って来ると、お菓子や野菜を持って帰って来ます。

「あれ？それどうしたの？」

と聞くと、

「〇〇さんにもらった。」

と返答が。どうやら息子は、実家からの道のりで、御近所さんに戴いているようでした。

「きちんとありがとう言えたかな。」

「うん。」

御近所さんの名前を覚え、御挨拶。戴き物をしたらきちんとお礼を言う。あたり前のことをあたり前に出来る息子を頼もしく思えました。後日、息子と一緒に御礼に伺った時のこと、

「〇〇さん、あのトマトすっごく美味しかったよ。」

食べた感想まできちんとと言える息子。大人顔負けの神対応に私もビックリし、自らの対応も見直すきっかけになりました。

我が家では、挨拶をきちんとする様、子供達に言い聞かせています。「おはよう」「おやすみ」

「いただきます」「ごちそうさま」「ありがとう」「ごめんなさい」「いってきます」「ただいま」

こういった普段の挨拶をきちんとすることが、人として大事だと感じているからです。息子は、これもきちんと守っています。知り合い、知らない人間わず。

「おはようございます。」

通園途中に行く。私の方が後について言うこともしばしばあり、親からの言い付けを守っているのだなと感心します。しかし、

「あれっ。聞こえてないのかな。おはようございます。」

顔見知りでない人へも元気に挨拶する息子ですが、挨拶を返さない大人もいます。こういった時、息子への返答にとまどい、大人として恥ずかしく感じることもありました。

昨今では、地域の方とのやり取りを煙たいとする人が少なくない。又、子どもを狙った犯罪も増えてきているため、極力知らない人とのやり取りを少なくします。しかし、何かあった時に助けてくれるのも地域の方であり、教わることも多くあります。無邪気な息子から自分達のあるべき姿を見つめ直し、息子には、今の人との対応を忘れず成長して欲しいと願います。



## 瀬戸内市優良賞一覧

### 〔小学生の部〕

| 題名              | 所属        | 氏名    |
|-----------------|-----------|-------|
| 「まほうのチャーハン」     | 牛窓北小学校 1年 | 安良田悠大 |
| ぼくのおてつだい        | 邑久小学校 1年  | 中西海璃  |
| わたしのひいばあちゃん     | 国府小学校 2年  | 内海杏莉  |
| ひいおばあちゃんはわすれんぼう | 国府小学校 2年  | 渡邊紗羽  |
| 車の中のクイズ大会       | 牛窓東小学校 3年 | 武内ひまり |
| ぼくとそっくりな妹       | 国府小学校 3年  | 頓宮琉太  |
| 西日本ごう雨から学んだこと   | 今城小学校 4年  | 田村晴香  |
| わたしのかわいい妹       | 行幸小学校 4年  | 酒井佑月  |
| お母さんの夏休み        | 邑久小学校 5年  | 井上天慈  |
| ぼくは小さなお父さん      | 行幸小学校 5年  | 林雄大   |
| 陸上でつながる家族       | 邑久小学校 6年  | 嶋村百花  |
| ぼくとお父さんの夏休み     | 今城小学校 6年  | 土井内啓祐 |

### 〔中学生の部〕

|            |          |       |
|------------|----------|-------|
| 家族との約束     | 邑久中学校 1年 | 吉田凜   |
| 母との言葉交し    | 長船中学校 1年 | 大西菜々美 |
| 大好きなおばあちゃん | 邑久中学校 2年 | 松本めい  |
| 祖母の背中      | 長船中学校 2年 | 木村陽向  |
| 「私の役割」     | 邑久中学校 3年 | 中川莉佳子 |
| 大切な時間      | 長船中学校 3年 | 堀元凜   |

### 〔保護者の部〕

|              |       |       |
|--------------|-------|-------|
| 私の目標         | 行幸幼稚園 | 澤野忍   |
| 夢中になれることを探して | 美和小学校 | 佐藤菜穂  |
| 『明るい家庭づくり』   | 美和小学校 | 田中泰寛  |
| 「家族」         | 美和小学校 | 西山文   |
| 長かったお盆休み     | 美和小学校 | 門田真紀  |
| 「11時にはいるよ！」  | 美和小学校 | 河合藍   |
| 十年越しの結婚式     | 国府小学校 | 池畠美里  |
| 私の宝物         | 行幸小学校 | 宮本洋子  |
| お兄ちゃんのお弁当    | 行幸小学校 | 川崎友子  |
| つばめがやってきた    | 行幸小学校 | 檜垣鈴子  |
| 二人の娘の母として    | 行幸小学校 | 児玉亜矢子 |
| お隣さん同士       | 行幸小学校 | 大饗いづみ |
| あたり前の幸せ      | 行幸小学校 | 永野江美子 |
| 母から子へ        | 行幸小学校 | 船岳美和子 |
| 些細な出来事から     | 行幸小学校 | 柳井あき  |
| 母は95歳        | 長船中学校 | 高原智香子 |

## 瀬戸内市佳作賞一覧

### 〔小学生の部〕

| 題名          | 所属        | 氏名   |
|-------------|-----------|------|
| みんなのえがお     | 牛窓東小学校 1年 | 藤井竣大 |
| ぼくのいもうと     | 牛窓西小学校 1年 | 爲房波琉 |
| ぼくのひいおじいちゃん | 邑久小学校 1年  | 神谷蓮佑 |
| はじめてのおてつだい  | 邑久小学校 1年  | 岡本陽葵 |
| おれのじいちゃん    | 邑久小学校 1年  | 前田陽仁 |
| ぼくのかぞく      | 今城小学校 1年  | 石坂栄樹 |

| 題名                | 所属        | 氏名    |
|-------------------|-----------|-------|
| ぼくのおしごと           | 裳掛小学校 1年  | 坂本翔真  |
| あたらしいかぞく          | 美和小学校 1年  | 佐藤由麻  |
| わたしのおとうと          | 国府小学校 1年  | 目賀稀乃華 |
| わたしのおうちはけーきやさん    | 行幸小学校 1年  | 柴田羽捺  |
| ずっとたからもの          | 行幸小学校 1年  | 大饗梨加  |
| 大すきなおねえちゃん        | 牛窓東小学校 2年 | 木下智裕  |
| 大すきはたらくおとうさん      | 牛窓西小学校 2年 | 鳴坂百華  |
| 「大切なかぞくだからたすけあおう」 | 牛窓北小学校 2年 | 児玉美人  |
| 夏休みに思ったこと         | 邑久小学校 2年  | 小原陽日希 |
| かわいいうも            | 邑久小学校 2年  | 古屋百々明 |
| わたしのおとうと          | 邑久小学校 2年  | 児玉玲奈  |
| ひいおばあちゃん          | 邑久小学校 2年  | 田鍋妃菜  |
| あかるいかてい           | 裳掛小学校 2年  | 松本駿斗  |
| サイクリング、サイコー！      | 美和小学校 2年  | 福池虎徹  |
| ぼくは、カメラマン         | 行幸小学校 2年  | 岡正宗也  |
| さいこうのおにいちゃん       | 行幸小学校 2年  | 山根煌介  |
| わたしのお父さん          | 牛窓西小学校 3年 | 畑中夕芽  |
| 「ひいおばあちゃんの手じゅつ」   | 牛窓北小学校 3年 | 真木心暖  |
| わたしのりょう親          | 邑久小学校 3年  | 山本彩寧  |
| わたしの家族            | 邑久小学校 3年  | 岡崎結空  |
| おはかまいり            | 邑久小学校 3年  | 則枝宏亮  |
| 赤ちゃんが生まれたよ        | 邑久小学校 3年  | 河井心実  |
| ぼくとなかよし家族         | 今城小学校 3年  | 原田直紀  |
| がんばったはこおり         | 裳掛小学校 3年  | 河崎紗良  |
| 家族のいいところ見つけたよ     | 美和小学校 3年  | 西山友愛  |
| わたしの夏休みの一日        | 国府小学校 3年  | 松原愛奈  |
| わたしのお父さん          | 行幸小学校 3年  | 西結菜   |
| お盆のぼくの仕事          | 牛窓東小学校 4年 | 浦部小太郎 |
| きょうだいていいいな        | 牛窓西小学校 4年 | 池田陽   |
| 新しい家族             | 邑久小学校 4年  | 梶原麻央  |
| 私の家族              | 邑久小学校 4年  | 奥田遥   |
| にぎやかな大家族          | 邑久小学校 4年  | 日笠彰亮  |
| ぼくの家族             | 裳掛小学校 4年  | 山口永遠  |
| きれいだったはなび         | 美和小学校 4年  | 門田優月  |
| 自まんの弟             | 国府小学校 4年  | 高倉劉心  |
| 私の自まんのお母さん        | 行幸小学校 4年  | 中川歩実  |
| 妹がいなくなった          | 牛窓東小学校 5年 | 内田勇斗  |
| お兄ちゃんとは仲がいい       | 牛窓西小学校 5年 | 合田奈津子 |
| 「あきじいちゃん」         | 牛窓北小学校 5年 | 末廣 築  |
| 私の祖母              | 邑久小学校 5年  | 藤森奏葉  |
| 全国大会を通じて          | 邑久小学校 5年  | 大西絢也  |
| わたしの家族と家庭         | 邑久小学校 5年  | 宮本胡蒔  |
| ぼくのおじいちゃん         | 裳掛小学校 5年  | 石川湧都  |
| わが家の恒例行事          | 美和小学校 5年  | 福池 実  |
| わたしのお母さんはスーパーマン   | 国府小学校 5年  | 大塚奈都  |
| おばあちゃんのおにぎり       | 国府小学校 5年  | 橋本 翠  |
| 自慢の家族             | 行幸小学校 5年  | 大森美菜子 |
| 我が家のバランス          | 牛窓東小学校 6年 | 元浜虎ノ介 |
| 一家団らん             | 牛窓西小学校 6年 | 糀山 銀  |

| 題名          | 所属        | 氏名        |
|-------------|-----------|-----------|
| 「農業家族」      | 牛窓北小学校 6年 | 神 宝 有 栖   |
| ぼくのスーパーウーマン | 邑久小学校 6年  | 魚 瀬 凌 太   |
| 新しい家族が増えた   | 邑久小学校 6年  | 河 合 憂 紀   |
| ぼくとお母さん     | 裳掛小学校 6年  | 山 口 昌 樹   |
| 十六歳のおじいちゃん  | 美和小学校 6年  | 大 倉 由 姫 乃 |
| 「お母さんのおかげ」  | 国府小学校 6年  | 馬 場 咲 菜   |
| じまんのおばあちゃん  | 行幸小学校 6年  | 横 山 千 尋   |
| 毎日の感謝       | 行幸小学校 6年  | 中 川 陽 生   |

〔中学生の部〕

|                    |          |           |
|--------------------|----------|-----------|
| 自分にファイト            | 牛窓中学校 1年 | 目 島 妃 夜 華 |
| 私のお母さん             | 邑久中学校 1年 | 川 野 舞 夏   |
| 私のお父さんとお母さん        | 邑久中学校 1年 | 生源寺 亜 佑 花 |
| 私の大切な祖母            | 邑久中学校 1年 | 吉 崎 天 音   |
| 夏休みのお手伝い           | 長船中学校 1年 | 田 中 琴 彩   |
| 前を向いて              | 牛窓中学校 2年 | 服 部 翔 太   |
| 「お父さんの仕事、お母さんの仕事」  | 邑久中学校 2年 | 伊 東 咲 百   |
| 災害支援をして感じたこと       | 長船中学校 2年 | 今 井 栞 希   |
| 親を見て思った            | 長船中学校 2年 | 守 時 寛 哉   |
| 家族に感謝              | 長船中学校 2年 | 義 若 虎 之 志 |
| ボランティア体験で学んだこと     | 牛窓中学校 3年 | 内 田 さ く ら |
| ひいおばあちゃんからの送り物     | 牛窓中学校 3年 | 畑 中 楓 花   |
| 母が怒る理由             | 邑久中学校 3年 | 根 木 美 岬   |
| 自分が居ること            | 邑久中学校 3年 | 重 光 優 依 奈 |
| お母さん               | 邑久中学校 3年 | 藤 卷 夢 奈   |
| おじいちゃんとおばあちゃんの暮らし方 | 長船中学校 3年 | 善 本 真 帆   |



## ほがらか家族

明るい家庭づくり作文集  
(瀬戸内市優秀賞受賞作品)

平成31年3月発行

編集発行

瀬戸内市教育委員会

岡山県青少年育成県民会議瀬戸内地区連絡協議会

〒701-4392 瀬戸内市牛窓町牛窓4911

瀬戸内市教育委員会社会教育課内